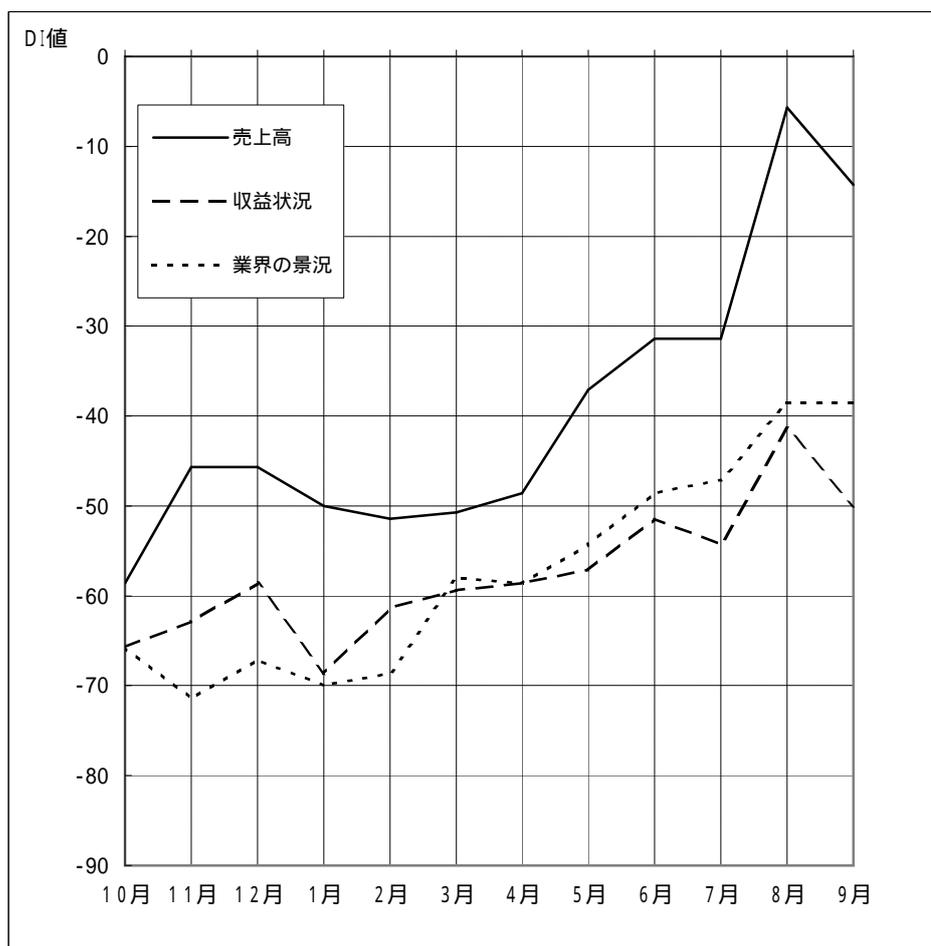


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成14年10月～平成15年9月

単位:ポイント



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	-58.6	-45.7	-45.7	-50.0	-51.4	-50.7	-48.6	-37.1	-31.4	-31.4	-5.7	-14.3
収益状況	-65.7	-62.9	-58.6	-68.6	-61.4	-59.4	-58.6	-57.1	-51.4	-54.3	-41.4	-50.0
業界の景況	-65.7	-71.4	-67.1	-70.0	-68.6	-58.0	-58.6	-54.3	-48.6	-47.1	-38.6	-38.6

9月のDI値をみると、「売上」と「収益状況」で悪化がみられた。前月顕著な改善がみられた「売上高」は、8.6ポイント悪化した。しかし、前月同様高いポイントを継続している。「収益の状況」は、8.6ポイント悪化し、再び-50%台に推移した。「業界の景況」は前月同様のポイントであった。全体的に先月の大きな改善を多少悪化させたが、平成13年1月以来いずれの数値をも上回っており、このことから景気改善の兆しが伺える。

業種別に見ると「売上高」で製造業では「一般機器」、「電気機器」で改善があり、「食料品」、「紙・紙工品」、「印刷」で減少がみられたが、製造業は全般的に改善された。非製造業では「サービス業」で改善されたが、悪化した業種として「小売業」、「商店街」、「建設業」、「運輸業」で減少が見られた。総体的には製造業よりも非製造業のほうが景況感が悪い傾向にある。

組合の特記事項からは、「木材・木製品」の製材、「鉄鋼・金属」の金属製品、「一般機器」の機械製造、「建設業」の土木工事で売上増に繋がる活発な報告があった。一方、「食料品」や「繊維・同製品」、「サービス業」で冷夏による影響の報告、その他多くの業種で受注減や単価の値上がりなどで売上減とする報告があり、中小企業の状況は依然として厳しいコメントが多かった。